

歴史は変わる

下野市教育委員会 生涯学習文化課

新聞やテレビなどの報道で目にした方も多いかと思いますが、小中学校の次期学習指導要領では、江戸時代の「鎖国」の表記が消え、「聖徳太子」も小中学校では「聖徳太子（厩戸王）」、中学校では「厩戸王（聖徳太子）」と教科書に記載されることとなりました。

これまで江戸幕府の対外政策を示す用語として使われてきた「鎖国」は、「江戸後期にオランダ語を訳した言葉であり、実際は長崎（出島）や対馬を窓口として交易が行われていたことから、幕府の政策ではなかったとする研究成果が反映されたもの」と解説されています。

また、聖徳太子は厩戸王の没後の呼び名であり、人物に親しむ小学校の歴史学習では、「聖徳太子（厩戸王）」、史実を学ぶ中学校では「厩戸王（聖徳太子）」の表記となります。

三〇年も前のこととなりますが、筆者が高校の日本史で教わった、髪はザンバラ髪で口と顎に髭があり、右肩側に刀を負い、鎧を身に着け馬に跨った「足利尊氏」像は、大学の講義で「あれは間違いである」と教わり、その研究成果として現在は足利尊氏ではなく「騎馬武者像」と表記されています。また、少

し前の話となりますが、日本考古学界最大の問題となった「旧石器捏造事件」に関連して、小学校の教科書から旧石器時代の表記がなくなりました。奈良県飛鳥池遺跡の発掘調査で「富本銭」の製作跡などが発見されたことで「和同開珎」が日本初の流通貨幣で無くなったことからこれも姿を消しました。日本最大規模の前方後円墳として大阪府堺市にある「仁徳天皇陵」として教わった古墳も現在は、歴史・考古学の研究の進展により仁徳天皇の墓との確証が得られないことから「大仙陵古墳（伝・仁徳天皇陵）」と記載されています。

小山市・下野市・壬生町周辺にも多くの古墳が残されています。下毛野地域の首長墓である二〇〇以上を越すような巨大な前方後円墳であっても個人を特定する、あるいは特定の一族の墓であったと断言することは、現段階では学術的に不可能です。九州地方から岩手県付近まで七万基以上の前方後円墳があると言われていますが、このうち誰の墓と推定できる古墳はほとんどありません。これらを推定する方法として学術的な発掘調査による研究が必要となります。古墳から特定の人物を推定するのは難しいのですが、平成二七年度に調査した下野薬師寺跡に隣接する

落内遺跡では、下野薬師寺が創建される前段階の立派な堀に囲まれた巨大な掘立柱建物群が発見されています。ここから出土した土器は、奈良県山田寺跡整地層出土土器や大阪府難波宮跡出土の土器とほとんど同じ大きさや形のものであることから、六四〇～五〇〇年頃のものと思定されます。この実年代は、残された文献史料や出土した木簡の記載から特定の年代が割り出されています。下野薬師寺を建立する直前、この広大な土地に堅穴建物跡とは別格の建物群を建て、その二～三〇年後に壮麗な下野薬師寺を建立することができたのは、古麻呂を輩出した下毛野一族と想定されます。出土した遺物の年代や各遺構の様相、歴史的背景となる土地利用の在り方、わずかに残された文献史料などを複雑に積み上げることと初めて、その遺跡の評価が可能となります。一朝一夕に歴史が変わり、簡単に歴史が判明するものではありません。その土地に根差した歴史は、長い間その地域で守り継がれて保護されてきたものです。史跡や遺跡は不動産的歴史資産です。小さな地域の皆さんの文化財の保護意識が、やがて日本の歴史を変えるような大きな発見につながるわけです。そのためには地道な保護と研究が必要となります。